

中川宋淵老師

石の声

石がささやく

秋ふかく

實相寺花園会報

令和五年 十一月一日発行
発行所 臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会

〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1

TEL087-889-3838
編集発行人 山本文匡

https://www.jissouji.net

第175号

お寺の揭示板

三島・龍澤寺の中川宋淵老師がこういふ句を残してくださいます。

われわれは、坐禅して無心になるといふけれど、それは周りのことがわからなくなる、聞こえなくなるようなことでは決してありません。むしろ「石がささやく石の声」も聞こえてくるようにならないといけません。

円覚寺派管長 横田南嶺老師

『ある日の法話より』 いろいろにはへと』より

図1-1-8 65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合（世帯構造別）と全世界帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合

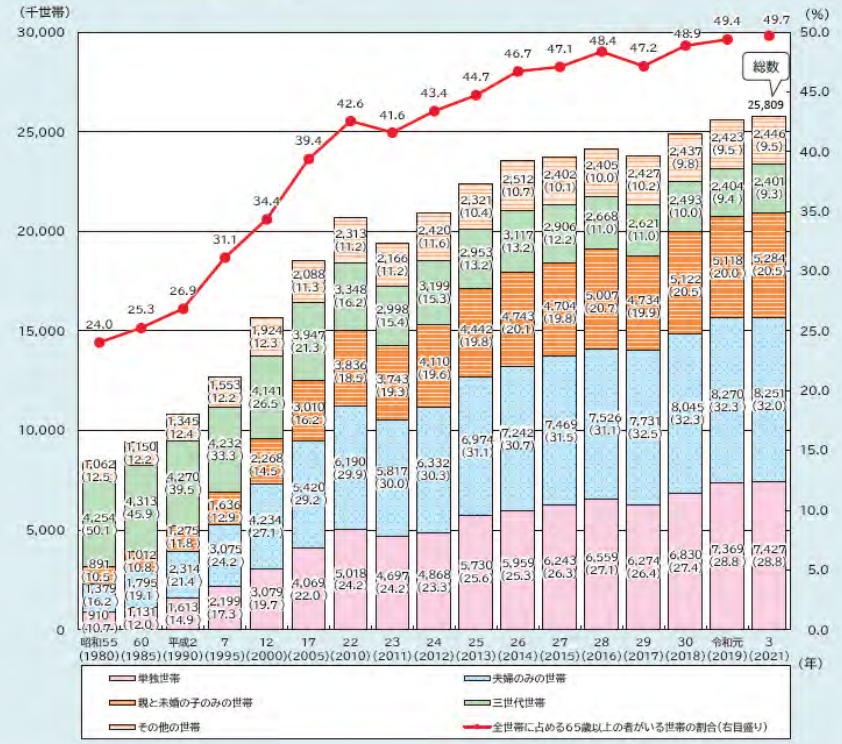
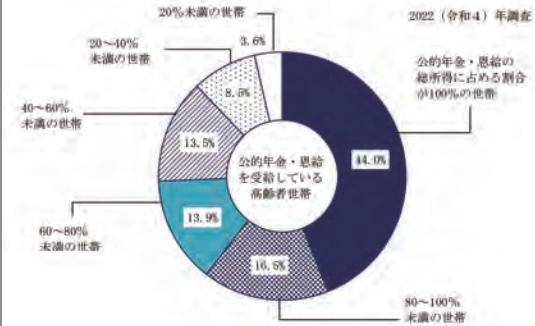


図11 公的年金・恩給を受給している高齢者世帯における公的年金・恩給の総所得に占める割合別世帯数の構成割合



「これからのお寺の役割とは⑤」
 昨年12月に全日本仏教会が実施した
 1万人規模のアンケート調査によると、
 男女ともに60代、70代の約3割が「菩
 提寺はない」と回答しているのですが、
 そのうちの約7割は「菩提寺を持つこ
 とを考えていない」と答えています。

この「菩提寺の必要性」を尋ねた質
 問に「必要なし」と回答した割合は20
 歳代で約5割、40歳代で約6割と、
 年齢が上がるほど高くなっているのが
 特徴です。一般的に、お寺とのつきあ
 いは年齢が高くなるほど増えるもので
 したが、いわゆる「団塊世代」以後の
 高齢者は、それほどお寺を必要として
 いないという傾向が伺えます。

その原因には家族構成が変わったこ
 とが影響を与えていると思われる。

た状況では、葬儀法要に費用を掛けら
 れないという事情も理解出来ます。

これらの社会的背景から、寺院経営
 は今後ますます厳しくなることが予想
 されますので、住職も今年5月から「未
 来の住職塾」というセミナーを受講し
 ました。以前から興味はあったのです
 が、今年からオンライン受講が可能に
 なったので、半年間全6回で15万円と
 安くはない受講料を払い受講しました。
 しかし、残念ながら住職が思うような
 学びには繋がりませんでした。

結局はどうやって納骨やお葬式を獲
 得するか、という経営コンサルでした。
 その手法は一般企業でも行われている
 ものですが、いかに他寺よりも抜きん
 出るかという観点での指導を受けまし
 た。でもそれが仏教寺院のあるべき姿

内閣府の令和5年度版「高齢社会白書」
 によると、昭和55年（1980）、高
 齢者のいる家庭の半数は3世代同居で
 した。しかし令和以降、祖父母と孫が
 一緒に暮らす家庭は1割以下です。

この40年間で高齢者のいる世帯は3
 倍に増え、全世帯の半数が高齢者のい
 る世帯になりましたが、その内訳は3
 割が一人暮らしの高齢者世帯、同じく
 3割が夫婦だけの高齢者世帯、さらに
 未婚の子と暮らす高齢者世帯も2割に
 増えていきます。

また厚労省が今年7月に発表した令
 和4年「国民生活基礎調査の概要」に
 よれば、公的年金や恩給を受給してい
 る高齢者世帯の44%は他の収入がなく、
 16%が全収入の8割以上を年金や恩給
 に頼っていることが判ります。こうし

だとは思えません。

インドでは13世紀に仏教が滅びまし
 た。原因は諸説ありますが、その中の
 一つに仏教自身の変節もあったと言わ
 れます。本来出自に依らない筈の仏教
 が、ヒンズー教化し出自をいう様にな
 った。その結果、反カーストの人達は
 イスラム教になったという説です。

日本の仏教は世界的に見てもかなり
 特殊な面がありますが、それでも本質
 的には仏教であったからこそ、これま
 で続いてきたのだと思います。何も先
 祖供養だけが寺院の役割なのではあり
 ません。合理性や効率率が重視される社
 会風潮の中、寺院や僧侶は一般社会と
 は異なる価値観があることを身を以て
 示すことこそが、仏教本来の役割では
 ないかと思うのです。(完)